

**English-Language Abstract of Japanese Reference 2:  
Japanese Unexamined Patent Application Publication No. JP 55-54788 A**

A pipe joint construction comprising a sealing member 3 for hermetically sealing between an inner circumferential surface of a receiving pipe section 1 and an outer circumferential surface of an inserted pipe section 2 inserted into and connected to the receiving pipe section 1 in a pipe axis direction, and a sleeve 5 provided in the inner circumferential surface of the receiving pipe section 1 for preventing separating movement of the pipe sections by contacting, in the pipe axis direction, a projection 9 protruding from the outer circumferential surface of the inserted pipe section 2, wherein the sleeve 5 is attached/detached to/from the receiving pipe section 1 by rotating the sleeve 5 about the pipe axis direction relative to the receiving pipe section 1 and by moving the sleeve 5 in the pipe axis direction.

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—54788

⑮ Int. Cl.<sup>3</sup>  
F 16 L 21/08

識別記号

庁内整理番号  
6333—3H

⑯ 公開 昭和55年(1980)4月22日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 離脱防止管継手

田鉄工株式会社武庫川製造所内

⑰ 特 願 昭53—129330

⑰ 出 願 人 久保田鉄工株式会社

⑱ 出 願 昭53(1978)10月19日

大阪市浪速区船出町2丁目22番地

⑲ 発 明 者 長尾正三

⑲ 代 理 人 弁理士 森本義弘

尼崎市大浜町2丁目26番地久保

明 細 書

1. 発明の名称

離脱防止管継手

2. 特許請求の範囲

1. 受口内面と挿口外面との間にシール材を介装し、挿口外面に遊嵌したスリーブの一端を受口内に挿入し、受口の開口端内面に周方向に複数個突設された突部係合部間を通過し得かつ該突部係合部と係合可能な突部をスリーブの上記一端外面に設け、スリーブの他端内面に挿口外面の突部と係合可能な突部を設けたことを特徴とする離脱防止管継手。

3. 発明の詳細な説明

本発明は離脱防止管継手に関するものである。

従来、受口と挿口間の離脱防止を図つた種々の管継手が提案されているが、ロックリングを挟み間隙から受口内に嵌着したり管全体を回転せたりする等、煩雑な接合作業を要する問題がある。

本発明は、簡単な作業で接合することのできる離脱防止管継手を提供するので、以下その一実

施例を図面に基づいて説明する。

受口11の内面と挿口12の外面との間にゴム製の環状のシール材13が介装されている。シール材13は外面に環状突部13aを有し、環状突部13aで受口11の内面の設部14に係合している。15は挿口12の外面に遊嵌されたスリーブであり、一端が受口11に挿入されている。受口11の開口端の内面の周方向複数箇所に環状の突部係合部16が突設されており、該突部係合部16間を通過し得かつ該突部係合部16と管軸方向に係合可能な複数の突部17がスリーブ15の上記一端外面に設けられている。各突部係合部16と隣接する受口11の内面に受口11の周方向へ漸次盛り上がる圧接突部18が設けられ、スリーブ15の突部17の外周面が圧接可能である。スリーブ15の他端内面にはスリーブ15内で挿口12の外面に設けられた環状の突部19と係合する環状の突部20が設けられている。

このような構成であると、継手接合にあつては、受口11の内面にシール材13を圧接状態に嵌着した後、挿口12を受口11内に挿入する。ついで、

(11)

(12)

スリーブ(5)を挿口(2)側の管の他端から挿口(2)に外脱させ、あるいは挿口(2)の受口(1)への挿入前に予めスリーブ(5)を挿口(2)に外脱させておく。そして、このスリーブ(5)の外面の突部(7)を受口(1)の突部係合部(6)間に対応する周方向位置に位置させてスリーブ(5)の一端を受口(1)へ押し込み、これにより突部係合部(6)間を通過させて突部(7)を受口(1)内へ位置させる。ついでスリーブ(5)を回転させると外面の突部(7)が突部係合部(6)の嵌面に対応する位置で突部(7)が圧接突部(8)のテーパ状の内周に圧接し、スリーブ(5)が受口(1)に固定される。このように、スリーブ(5)の一端を押し込んで回転させるといった簡単な作業で組手作業が完了する。接合完了後、スリーブ(5)の外面の突部(7)が受口(1)の突部係合部(6)と係合し、内面の突部(7)が挿口(2)の外面の突部(9)と係合することにより受口(1)と挿口(2)との離脱阻止がなされる。なお、圧接突部(8)は必ずしも必要ではないが、圧接突部(8)が設けられているとスリーブ(5)が圧接して受口(1)に固定されるため、スリーブ(5)が不用意に回転してスリーブ(5)の外面

(3)

の突部(7)と受口(1)の突部係合部(6)との係合が外れることがない。

以上説明したように、本発明によると、受口内に一端を挿入したスリーブの該一端外面に受口の突部係合部間を通過し得かつ該突部係合部と係合可能な突部を設け、スリーブの他端内面に挿口の突部と係合可能な突部を設けたので、受口と挿口との嵌合後、スリーブ一端を受口に挿入し、該スリーブを受口外に突出した部分を把持して回転させることにより接合作業が完了する。そのため、従来のように管全体を回転させたり、狭い間隙内にロックリングを挿入したりする等の作業が不用で接合作業が簡単に行なえる。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示し、第1図は縦断面図、第2図は第1図のI-I線における横断面図、第3図は第1図のII-II線における部分横断面図である。

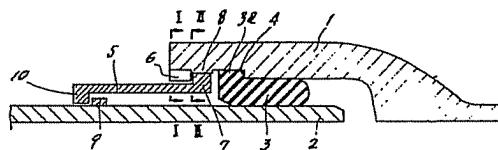
(1)…受口、(2)…挿口、(3)…シール材、(5)…スリーブ、(6)…突部係合部、(7)…突部、(8)…圧接突部、

(4)

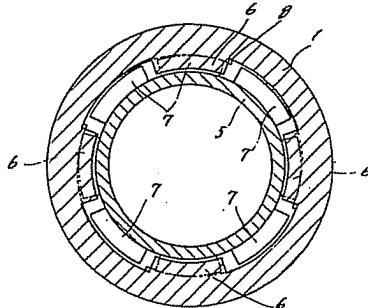
(9) 00…突部

代理人 森 本 義 弘

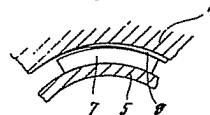
第1図



第2図



第3図



(5)